



こうか
まちかど特派員

まつもと みえこ
松本美恵子



先人の知恵の結晶・ 秘技を探ってウォーキング

11月8日は、信楽焼のためきが一斉に休む「ためきの休日」。
この日、ためきは一日お休みでしたが、いくつかのイベントが行われました。
その中の一つ「秋の信楽高原ウォーク・窯元散策、信楽焼を観る」に参加、
伝統800年の信楽焼の技を見学しました。



▲信楽狸囃子が行われる新宮神社

この日はあいにくの雨模様でしたが、約40人の参加者が集まりました。

信楽駅前からまっすぐ10分ほど歩く
と新宮神社、その脇道を上ると窯元散
策路になります。ガイドの説明を聞き
ながらゆっくりと歩きます。途中も
使われなくなった登り窯を見ることが
できます。黒いすがたき口あたりに
残り、丸い屋根の形や乾いた土の色が
落ち着きと力強さを表わしています。

信楽焼の最初の窯は斜面にトンネル
を掘った穴窯です。鎌倉時代から始ま
ったようです。その頃は森林が豊かで、
火をたく材料に恵まれていました。こ
の時代の信楽焼を「古信楽」といいま
す。江戸時代（1700年頃）に登窯
が使われるようになります。穴窯は直
火で品物を焼いたので良品率が低かつ
たようです。登窯は、火袋（燃焼室）
と焼間（焼成室）を分離したので良品

率、生産性が飛躍的に向上しました。燃費も
格段に向上しました。その後、石炭、石油な
どを使う窯を経て、現在ではガス窯、電気窯
が主流になっています。

電動ろくろを回して作品を創りあげていく
作家の工房を見学しました。異なる性質をも
つ土の配合、水分量、土に触れる手指の動き
と計算されたものが火を得て思いがけないも
のに変容することに深い感動を覚えます。

昼食は谷川会館で。おいしい豚汁、柿のな
ます、お茶などをいただきました。午後、山
道を15分ほど登ると県立陶芸の森に到着。こ
こでは再現された穴窯を見学できました。ま
さに木々を火の中に入れて焼成中。真っ赤な
炎と黒煙が一つになり、大きなうねりとなっ
て窯の向こう側へと突き抜けていきます。四
昼夜たき続けるとのこと。

ウォークで伝統の技を見学した後は新宮
神社の境内に戻り、舞台で奉納、信楽狸囃子
を楽しみました。信楽狸八相縁起が唄われま

した。

この日は「ためき休むでえ〜」のためきは休
息しています。信楽焼の代名詞のようなためき
の置物たちに感謝といたわりの気持ちを含め
て休みの日を設けたのです。初めて休みをもら
い元気になってます丸い目をしているこ
とでしょう。

いつもとは
少し違う雰
囲気のま
ちの中を
ウォーキン
グ。そこで
伝統を味
わい、ま
ちの魅力
を再認識
できた気
がしました。

時雨るるや
陶狸は横に
なりにけり

